

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2018/12/1~2019/3/31)

令和元年8月5日  
令和元年度第1回  
医薬品等安全対策部会  
資料 4-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20180728.5933912	2017年8月1日以降、米国ケンタッキー州公衆衛生局(DPH)は、A型肝炎ウイルス(HAV)による急性A型肝炎1170例を確認した。2018年7月14日現在の当該アウトブレイクによる総症例数は1170例で、入院659例及び死亡8例を含む。米国ウエストバージニア州において2018年3月に始まったA型肝炎のアウトブレイクに関して、2018年7月27日現在、保健当局は当該アウトブレイクによる症例数の総数を699例としており、過去2週間で約160例増加した。同州の20郡で感染を認め、Kanawha郡(363例)及びCabell郡(153例)が症例数全体の75%を占めた。428例が入院し、2例が死亡した。当該アウトブレイクは、主に注射薬又は非注射薬使用者(80%)、ホームレス又は非定住者(15%)及び最近投獄を経験した者の間で発生していた。10例中8例近くにおいて、B型肝炎ウイルス(HBV)又はC型肝炎ウイルス(HCV)のいずれかに同時感染している。
2	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20180827.5990109	2018年3月以降、米国ウエストバージニア州公衆衛生局は急性A型肝炎確定症例数の増加を報告している。症例数増加は主に注射薬又は非注射薬使用者、ホームレス又は住所不定者及び最近投獄を経験した者で確認された。ウイルスの塩基配列測定により、米国ケンタッキー州及び米国カリフォルニア州の症例との関連が認められた。2018年8月24日現在、同州におけるA型肝炎アウトブレイクの症例数は1031例で、入院は562例、死亡は2例、年齢範囲は12歳から82歳、年齢中央値は37歳である。リスク因子について、HCV同時感染は542例、HBV同時感染は98例、違法薬物使用は666例、ホームレスは126例である。
3	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181114.6145681	2018年3月以降、米国ウエストバージニア州公衆衛生局は急性A型肝炎確定症例数の増加を報告している。症例数増加は主に注射薬又は非注射薬使用者、ホームレス又は住所不定者及び最近投獄を経験した者で確認された。ウイルスの塩基配列測定により、米国ケンタッキー州及び米国カリフォルニア州の症例との関連が認められた。2018年11月9日現在、同州におけるA型肝炎アウトブレイクの症例数は1774例で、入院は914例、死亡は5例、年齢範囲は12歳から86歳、年齢中央値は37歳である。リスク因子について、HCV同時感染は824例、HBV同時感染は153例、違法薬物使用は1135例、ホームレスは194例である。
4	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181119.6154486	米国ペンシルベニア州では、A型肝炎症例は通常毎年40から60例が確認されるが、2018年は2018年11月19日現在において81例が報告されている。州知事が声明で伝えたところによると、州内各地においてA型肝炎の拡散に関する懸念が高まっており、特に注射薬又は非注射薬使用者、男性間性交渉者及びホームレスにおいて危惧されている。2018年3月以降、米国ウエストバージニア州公衆衛生局は急性A型肝炎確定症例数の増加を報告している。症例数増加は主に注射薬又は非注射薬使用者、ホームレス又は住所不定者及び最近投獄を経験した者で確認された。ウイルスの塩基配列測定により、米国ケンタッキー州及び米国カリフォルニア州の症例との関連が認められた。2018年11月16日現在、同州におけるA型肝炎アウトブレイクの症例数は1859例で、入院は960例、死亡は5例、年齢範囲は12歳から86歳、年齢中央値は37歳である。リスク因子について、HCV同時感染は852例、HBV同時感染は158例、違法薬物使用は1178例、ホームレスは202例である。
5	A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎	ProMED-mail 20181127.6168161	2017年8月1日以降、米国ケンタッキー州DPHは、HAVIによる急性A型肝炎症例が2000例を超えたことを確認した。2018年11月17日現在の当該アウトブレイクによる総症例数は2769例で、入院1438例及び死亡17例を含む。2018年3月以降、米国ウエストバージニア州公衆衛生局は急性A型肝炎確定症例数の増加を報告している。症例数増加は主に注射薬又は非注射薬使用者、ホームレス又は住所不定者及び最近投獄を経験した者で確認された。ウイルスの塩基配列測定により、米国ケンタッキー州及び米国カリフォルニア州の症例との関連が認められた。2018年11月16日現在、同州におけるA型肝炎アウトブレイクの症例数は1859例で、入院は960例、死亡は5例、年齢範囲は12歳から86歳、年齢中央値は37歳である。リスク因子について、HCV同時感染は852例、HBV同時感染は158例、違法薬物使用は1178例、ホームレスは202例である。
6	E型肝炎	COMMUNICABLE DISEASES WATCH. <a href="https://www.chp.gov.hk/files/pdf/cdw_v15_23.pdf">https://www.chp.gov.hk/files/pdf/cdw_v15_23.pdf</a>	中国保健省の保健管理センターは、抗E型肝炎ウイルス(HEV) IgM抗体が陽性で、ヒトHEV核酸が陰性である73例の患者の保存血液を香港大学微生物学部(HKU)に提供し、検査を行った。HKUは以前に報告されたHEV症例がラットHEVによって引き起こされたことを同定し、2例において検出されたウイルスの遺伝子配列が酷似していることを発見した。これまで入手した疫学的情報に基づいて調査した結果、当該2例における感染源及び感染経路は特定できなかった。
7	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 24(2018)2241-2250	56歳の男性が2017年5月14日に慢性B型肝炎に合併した肝細胞腫瘍の治療において肝臓移植を受けた。移植11日後、退院した。移植59日後、ALT 74 U/L、さらに一週間後、ALT 138 U/L、AST 65 U/L、γ-GPT 124 U/Lとなった。サンプルからHEV-C RNA、HEV-C抗原を検出した。HEV-C分離株のゲノムは、ベトナムにおいて報告されたHEV-C株と93.7%の同等性があった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	E型肝炎	GOV.UK. <a href="https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/779218/Emerging_infections_summary_January_2019.pdf">https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/779218/Emerging_infections_summary_January_2019.pdf</a>	カナダにおいて、新型のラットHEV株による急性肝炎の3例目のヒト感染例が報告された。HEVに関する通常のPCRは陰性で、同感染症を診断するため、広範囲反応性PCRを用いてHEV変異株を検出した。系統発生解析により、当該ウイルスが、最近香港において報告されたラットHEVに感染した臓器移植患者が感染したウイルスとは遺伝的に異なることが示された。
9	E型肝炎	ProMED-mail 20180928.6057342	2018年9月27日、香港大学は香港の56歳の男性において、ヒトに感染するラットHEVが世界で初めて見つかったことを明らかにした。患者は肝臓移植を受け、免疫抑制剤を服用していた。肝機能検査で持続的に異常を示し、追加検査でラット肝炎ウイルスを保有していることが示された。当該ウイルスの伝播ルートは不明であるが、男性の家の外のゴミ箱にはラットが入りしていることとみられることから、感染したラットの糞で汚染した食品を摂取したことにより感染した可能性がある。
10	E型肝炎	ProMED-mail 20181119.6153527	香港の56歳の男性において、世界で初めてヒトに感染するHEVウイルスが発見された。当該ウイルスは、ラットにのみ存在することが知られており、ヒトに影響を及ぼす株とは大きく異なった肝炎ウイルスの株を本患者が保有していることが認められた。その後、1例目と同様の感染症が報告された。2例目の症例は、1例目の症例と同じ地域に住む高齢の女性患者であった。2018年5月、この女性はE型肝炎と診断され、血清サンプルを調査した結果、1例目の症例とウイルス株が一致した。1例目の症例と同様に、この女性が感染した株もラットに由来すると考えられている。
11	E型肝炎	Transfus Med.28(2018) 427-432	献血者及び血液凝固因子製剤投与歴のある患者におけるHEVの血清陽性率を比較し、血液凝固因子製剤によるHEVの伝播が起こり得るかどうかを検証したところ、血液凝固因子製剤投与歴のある患者よりも献血者の方がHEV血清陽性率が有意に高かった。HEVが凝固因子製剤の製造工程中に効率的に不活性化されることが示唆された。
12	インフルエンザ	CDC Flu View. 2018/08/11	米国の3州において、4例の新型インフルエンザAウイルス(IVA)に感染したヒト症例が報告された(カルフォルニア州2例、ミシガン州1例、オハイオ州1例)。4例の患者はインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルス(IVA(H1N2)v)に感染していた。
13	インフルエンザ	CDC Flu View. 2018/08/18	米国の2州において、4例の新型IVAに感染したヒト症例が報告された(カルフォルニア州2例、オハイオ州2例)。4例はIVA(H1N2)vに感染し、2018年8月初旬に呼吸器症状を伴って発症した。
14	インフルエンザ	CDC Flu View. 2018/08/25	米国オハイオ州において、1例の新型IVAに感染したヒト症例が報告された。当該患者はIVA(H1N2)vに感染し、発症の前週に農産物品評会においてブタへの接触があった。
15	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 24(2018)1926-1929	2016年10月から2018年1月までに採取された米国中西部におけるウシ由来のサンプル1525件を検査した結果、64件がインフルエンザC型ウイルス(ICV)陽性だった。これまでICVはヒトとブタから検出されているが、ウシへの感染については調べられていなかった。ICVの人畜共通感染性を示すデータは得られていないが、ヒト分離株のヌクレオチドとの同一性は97.1%であり、ICVの人畜共通感染性について詳細な研究の必要が示唆された。
16	インフルエンザ	Influenza Other Respir Viruses. 13(2019)91-105	台湾のブタにおけるインフルエンザについての能動的サーベイランスの結果、3株のインフルエンザB型ウイルス(IBV)が分離された。実験的感染からブタがIBVの宿主となることは示唆されていたが、本研究では初めて自然感染したブタからIBVが検出された。
17	インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_21_09_2018-revised.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_21_09_2018-revised.pdf?ua=1</a>	2018年8月、米国においてIVA(H1N2)v感染症例13例が報告された。1例を除く全例が疾患発症前に農産物品評会に参加したが、1例は品評会には参加しておらず、ブタへの曝露も報告されていないため、限定的なヒトからヒトへの感染が示唆された。
18	鳥インフルエンザ	日本獣医師会雑誌. 71(2018)613-619	1997年の香港におけるH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスのヒト感染事例以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトへの感染事例が多数報告されており、鳥インフルエンザウイルスのヒト感染事例は、パンデミックインフルエンザ出現に対する重要な監視事項となった。
19	ウエストナイルウイルス感染	FluTrackers. <a href="https://flutrackers.com/forum/forum/emerging-diseases-other-health-threats-alphabetical-i-thru-z/west-nile-virus/800393-germany-suspected-human-case-of-autochthonous-west-nile-fever-reported">https://flutrackers.com/forum/forum/emerging-diseases-other-health-threats-alphabetical-i-thru-z/west-nile-virus/800393-germany-suspected-human-case-of-autochthonous-west-nile-fever-reported</a>	ドイツにおいて、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したフクロウを剖検した獣医師がWNVに感染したことが報告された。
20	ウエストナイルウイルス感染	Xinhua. <a href="http://www.xinhuanet.com/english/2018-09/28/c_137497532.htm">http://www.xinhuanet.com/english/2018-09/28/c_137497532.htm</a>	チェコ共和国において、WNVの最初の国内感染死亡例が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
21	フラビウイルス感染	Euro Surveill. 23:43(2018)1-6	オーストリアにおいて、WNV及びウスツウイルス(USUV)感染者数が増加している。2018年6月28日から2018年9月17日の間に、供血者を含むWNV感染が27例報告された。さらに、ウイルス特異的RT-PCR法による追加検査の結果、供血検体18本でUSUV陽性となり、2001年にオーストリアでUSUV感染が報告されて以来最多の感染者数となった。
22	東部ウマ脳炎	Clin Infect Dis.ciy923	固形臓器移植を介した東部ウマ脳炎ウイルス(EEEV)感染症の初めての伝播が米国で報告された。心臓、肝臓、肺のレシピエント3例は、移植後脳炎を発症し、全例にEEEV感染のエビデンスがあった。レトロスペクティブな調査で、ドナーの血清中にEEEV RNAが検出された。
23	東部ウマ脳炎	PHEホームページ. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/755301/Emerging_infections_summary_October_2018.pdf	固形臓器移植を介したEEEV感染症の初めての伝播が米国で報告された。心臓、肝臓及び肺のレシピエント3例は、移植から1週間以内に脳炎を発現し、全例でEEEV感染が確認された。ドナーの血清の遡及的検査により、臓器採取から24時間以内の血清中にEEEV RNAが検出されたが、IgMは検出されず、病院への入院直前又は直後のいずれかに当該ウイルスに感染したことが示唆された。
24	ベネズエラウマ脳炎	Emerg Infect Dis. 24(2018)1578-1580	2013年、ペルーにおいて多様な疾患症状を呈した少年の鼻咽頭ぬぐい液及び血清試料からベネズエラウマ脳炎ウイルス(VEEV)が検出された。VEEVはエアロゾル化した粒子を介した感染が可能であり、呼吸器分泌物による新たな感染経路の可能性が示唆された。
25	エボラ出血熱	J Infect Dis. in press	シエラレオネにおいて、野生動物との接触の機会を持つ地域のブタから血清を採取し、エボラウイルス(EBOV)への曝露を調査した結果、ブタに循環しているウイルスはヒトに感染するEBOVと抗原的に関連があるが、未知の病原性又は人畜共通性を有する可能性が示唆された。
26	重症熱性血小板減少症候群	Int J Infect Dis. 79(2019)77-84	重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)に関する27件の文献を用いたメタアナリシスにおいて、抗SFTSV抗体の検出及びSFTSV RNAの検出から、SFTSVがヒツジ、ウシ、ブタ、ニワトリ等に感染することが示唆された。
27	脊髄炎	CDC MMWR. 67(2018)1273-1275	米国疾病管理予防センター(CDC)は、2017年8月と比較して、急性弛緩性脊髄炎(AFM)に臨床的に適合する症状を呈する患者の報告数が増加したことを2018年8月に指摘した。2014年以降、米国CDCは標準化した症例定義を用いてAFMに対する調査を実施している。2018年1月1日から11月2日に急性弛緩性四肢脱力に分類された106例の患者のうち、80例がAFMの確定例、6例はAFM疑い症例、20例は非AFM症例として分類された。
28	リンパ性脈絡髄膜炎	Transpl Infect Dis. 20(2018)e13013-13017	米国において、糖尿病性の末期腎臓病による腎移植の病歴がある39歳の男性がリンパ性脈絡髄膜炎で入院した症例が報告された。家族は病原体への接触や最近の旅行を否定したが、症状発現3日前に友人の地下室を掃除していた際にマウスの排泄物に曝露したと述べた。当該患者は20日目に入院患者リハビリテーションに移り、16日後に退院した。
29	ウイルス感染	Australian Veterinary Journal. 96(2018)203-208	オーストラリアにおけるウシ糞便保存検体から、初めてウシノロウイルスが検出されたことが報告された。
30	ウイルス感染	South China Morning Post. https://www.scmp.com/news/hong-kong/health-environment/article/2166090/worlds-first-case-rat-hepatitis-e-infecting-human	香港の56歳の男性において、世界で初めてヒトに感染するHEVウイルスが発見された。当該ウイルスは、ラットにのみ存在することが知られており、ヒトに影響を及ぼす株とは大きく異なった肝炎ウイルスの株を本患者が保有していることが認められた。その後、1例目と同様の感染症が報告された。2例目の症例は、1例目の症例と同じ地域に住む高齢の女性患者であった。2018年5月、この女性はE型肝炎と診断され、血清サンプルを調査した結果、1例目の症例とウイルス株が一致した。1例目の症例と同様に、この女性が感染した株もラットに由来すると考えられている。
31	ウイルス感染	Vet Rec. 183(2018)300-301	中国遼寧省瀋陽市においてアフリカブタコレラ(ASF)の最初の症例が確認された。その後、異なる3地域でASFアウトブレイクが発生した。
32	ウイルス感染	Virus Genes. 54(2018)470-473	ブタの胃から発見されていたWuhan large pig roundworm virusが初めてヒトの糞便サンプルから検出された。急性胃腸炎を呈していたブラジルの2歳児から2015年1月8日に採取されたサンプルより得られた。
33	クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA ホームページ. https://www.ema.europa.eu/documents/scientific-guideline/chmp-position-statement-creutzfeldt-jakob-disease-plasma-derived-urine-derived-medicinal-products_en-0.pdf	クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)と血漿由来及び尿由来医薬品に関する欧州医薬品庁の医薬品委員会の意見書(3回目の改訂)が発出された。勧告及び提案は以下のとおりであった。9.1 散発性、遺伝性及び医原性CJD及び血漿由来製品:ドナー選択に関する推奨事項に変更はない。パッチリコールについて推奨事項に変更はない。しかし、製造工程のプリオン削減能力の重要性が強調されている。9.2 変異型CJD(vCJD)及び血漿由来製品:vCJDに関する推奨事項に変更はない。英国及びフランスでの症例数は減少しているが、vCJDが分離された症例はいまだに報告されており、将来の症例数についてはまだ、不確実である。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSA Journal. 16(2018)5492	フランスの肉用繁殖雌牛2頭において非定型の牛海綿状脳症(BSE)(H-及びL-BSE)が確認された。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Commun. 8(2017)	食品を通じてBSEへの曝露経験を有するが、プリオン病を発症していない(異常プリオンタンパク質が全く検出されていない)ドナーからの輸血が原因で、海綿状脳症、ミエロパチー等の神経障害が発症する可能性が示唆された。
36	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information.2018/08/29	米国フロリダ州において、6歳齢の食用ウシにおける非定型BSEの発症が報告された。感染の原因については特定されていない。20年に渡るBSEの監視において5例目の報告であり、報告された非定型BSEのタイプは全てHタイプであった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	異型クローンツェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20180829.5995043	米国フロリダ州において、6歳齢の食用ウシにおける非定型BSEの発症が報告された。感染の原因については特定されていない。20年に渡るBSEの監視において5例目の報告であり、報告された非定型BSEのタイプは全てHタイプであった。
38	$\beta$ 溶血性レンサ球菌感染、C型肝炎、HIV感染	CCDR. 44-7/8(2018)182-188	2016年4月1日から2018年2月28日の間に発症したことが確実な侵襲性A群連鎖球菌感染症確定例156例がMiddlesex-London Health Unitに報告された。うち29例が薬物使用者、6例が住所不定者、36例が両方に相当した。薬物使用者又は住所不定者71例のうち、52例がHCVに、15例がヒト免疫不全ウイルスに同時感染していた。
39	大腸菌感染	HPS Weekly Report. 52(2018)210	スコットランドでは過去10年間、ウシにおける大腸菌O157の有病率は比較的安定したままであることが明らかになった。しかし、スコットランドのウシは、糞便中への大量の細菌の排出と関連する大腸菌O157の特定のサブタイプ(PT21/28)をより高レベルで保有していることが示唆された。
40	サルモネラ症	ProMED-mail 20181212.6204049	2018年10月中旬からデンマーク国立血清学研究所に報告されているサルモネラの感染症例(32症例及び19例の入院)について、デンマーク当局が調査中である。初期情報では、原因として生の豚肉が指摘された。
41	梅毒、クラミジア感染、淋疾	CDCホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2018/p1221-2018-year-review.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2018/p1221-2018-year-review.html</a>	2018年に米国CDCが発表したデータによると、クラミジア、淋病及び梅毒の症例約230万例を含む、米国における性感染症の急速で持続的な増加が示された。
42	エンテロバクター感染	International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology. <a href="https://ijs.microbiologyresearch.org/content/journal/ijsem/10.1099/ijsem.0.003207">https://ijs.microbiologyresearch.org/content/journal/ijsem/10.1099/ijsem.0.003207</a>	最近の研究で、中国において2例の患者の血液から抗生物質耐性菌の新種が発見された。ペニシリンやセファロスポリン系の抗生物質に反応せず、同定されていない種の <i>Enterobacter huaxiensis</i> 及び <i>Enterobacter chuandaensis</i> が認められた。
43	エンテロバクター感染	ProMED-mail. 20190115.6258926	最近の研究で、中国において2例の患者の血液から抗生物質耐性菌の新種が発見された。ペニシリンやセファロスポリン系の抗生物質に反応せず、同定されていない種の <i>Enterobacter huaxiensis</i> 及び <i>Enterobacter chuandaensis</i> が認められた。
44	エンテロバクター感染	The Quint. <a href="https://fit.thequint.com/health-news/antibiotic-resistant-bacteria-found-in-patients-blood-in-china">https://fit.thequint.com/health-news/antibiotic-resistant-bacteria-found-in-patients-blood-in-china</a>	最近の研究で、中国において2例の患者の血液から抗生物質耐性菌の新種が発見された。ペニシリンやセファロスポリン系の抗生物質に反応せず、同定されていない種の <i>Enterobacter huaxiensis</i> 及び <i>Enterobacter chuandaensis</i> が認められた。
45	ヒトアナプラズマ症	Vet Microbiol. 226(2018)15-22	韓国のウシ1219頭においてアナプラズマ種の鑑別診断を実施した結果、5頭(0.4%)から <i>Anaplasma capra</i> ( <i>A. capra</i> ) の4つの遺伝子が検出された。この結果はウシが <i>A. capra</i> の宿主となりうることを示唆している。ウシにおける病原性とヒトへの伝染について研究の必要性が示唆された。
46	細菌感染	Arkansas Democrat Gazette. <a href="https://www.arkansasonline.com/news/2018/oct/30/bacteria-outbreak-confirmed-20181030-1/">https://www.arkansasonline.com/news/2018/oct/30/bacteria-outbreak-confirmed-20181030-1/</a>	米国Arkansas Cancer Instituteで治療を受けた52例が未知の細菌に対して陽性を示したことが確認された。ポートを使用する患者においてアウトブレイクが明らかになった。当該細菌(FVL-2018-32)の初期検査では、ヒトからヒトへ感染しやすい細菌であることは示されず、正常な免疫系を持つヒトにとって危険な細菌とは示唆されていない。52例中3例のがん患者が死亡したが、同細菌が原因で死亡したかは不明である。
47	細菌感染	Emerg Infect Dis. 25(2019)153-156	オーストラリアにおいて、コアラによる咬傷からの <i>Lonepinella koalarum</i> 様細菌感染が3例の患者に認められたと新たに報告された。 <i>Lonepinella koalarum</i> はコアラ糞便中に存在するが、 <i>Lonepinella koalarum</i> 様株はコアラ肉中より見出されている。3例は皮膚及び軟部組織感染症を示し、創面切除を必要としたが後遺症は認められなかった。
48	細菌感染	FDAホームページ. <a href="https://www.fda.gov/ucm/groups/fdagov-public/@fdagov-bio-gen/documents/document/ucm627407.pdf">https://www.fda.gov/ucm/groups/fdagov-public/@fdagov-bio-gen/documents/document/ucm627407.pdf</a>	米国食品医薬品局(FDA)から発出されたドラフトガイダンスについて報告された。輸血用血小板製剤の安全性と有効性向上のため、血小板製剤において細菌感染のリスクを低減させるための推奨方法が記載されている。血小板製剤における細菌感染のリスクコントロールとして、血小板の種類(成分献血由来の血小板、保存前のプール血小板)及び採血後の日数(5日又は7日)により、「① 初回培養検査及び二次培養検査の組み合わせ」、「② 初回培養検査及び迅速検査の組み合わせ」、「③ 病原体低減化技術の使用」及び「④ 大容量遅延サンプリング検体による培養試験」の中から適切な方法を選択する旨が記載されている。
49	細菌感染	ProMED-mail 20181031.6121535	米国Arkansas Cancer Instituteで治療を受けた52例が未知の細菌に対して陽性を示したことが確認された。ポートを使用する患者においてアウトブレイクが明らかになった。当該細菌(FVL-2018-32)の初期検査では、ヒトからヒトへ感染しやすい細菌であることは示されず、正常な免疫系を持つヒトにとって危険な細菌とは示唆されていない。52例中3例のがん患者が死亡したが、同細菌が原因で死亡したかは不明である。
50	禿瘡	日本小児皮膚科学会雑誌. 37(2018)108-113	症例は5歳男児、初診1か月ほど前にハムスター等の小動物への接触歴があった。初診2週間前より右後頭部に脱毛を伴う膿痂疹が出現し、近医皮膚科で伝染性膿痂疹と診断された。真菌学的精査の結果、 <i>Trichophyton mentagrophytes complex</i> 属の <i>Arthroderma vanbreuseghemii</i> によるケルスス禿瘡と診断した。本症はハムスター等の齧歯類に起因した <i>Arthroderma vanbreuseghemii</i> によるケルスス禿瘡の可能性が考えられた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
51	寄生虫感染	Parasitol Int. 67(2018)824-828	タイ中央部の養豚場におけるプラストシスチス原虫の存在及び遺伝的多様性を調査するため、154例のヒト糞便サンプル及び90頭のブタ糞便サンプルを解析した。ネステッドPCRの結果、ブタにおいては35.55%のサンプルにプラストシスチス原虫が検出され、ヒトにおいては6.49%のサンプルに検出された。小サブユニットリボソームRNA (SSU rRNA) 遺伝子の領域に基づくサブタイピングによりブタとヒトのプラストシスチス原虫のサブタイプとしてST1、ST3、ST5が同定された。また、ブタとヒトのプラストシスチス原虫のサンプルでは、DNA配列が密接に関連していることが分かった。暫定的に、豚の便との密接な接触や暴露が、養豚場の従業員に検出されるプラストシスチス原虫への感染の原因であることが示唆された。
52	肉胞子虫感染	Parasitol Int. 67(2018)800-804	中国河南省において、ウシの心筋及び横隔膜サンプルを、組織学的検査、ペプシン消化及び分子アッセイによってスクリーニングしたところ、ウシのザルコシステイス感染の有病率は41.5% (216/521)であった。組織学的検査により、ウシの心筋層 (49.4%、200/405) 及び横隔膜 (13.8%、16/116) に筋嚢胞が同定された。 <i>Sarcocystis. Cruzi</i> は41.3% (215/521)、 <i>Sarcocystis. hominis</i> は0.2% (1/521)であった。
53	ライム病、ロッキー山紅斑熱	CDCホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s1114-record-number-tickborne-diseases.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2018/s1114-record-number-tickborne-diseases.html</a>	米国CDCからのデータによると、ダニ媒介性疾患が再び増加していることが示されている。ライム病、アナプラズマ症/エールリヒア症、紅斑熱リケッチア症(ロッキー山紅斑熱を含む)、バベシア症、野兔病及びポワッサンウイルス疾患の症例が全て増加しており、2016年の48610例から2017年は59349例に増加した。
54	人畜共通細菌感染、コクサッキーウイルス感染	ProMED-mail 20181202.6172872	米国において、鼠咬症菌及びコクサッキーウイルスへの感染症例が報告された。患者は24歳女性、数日間の激しい嘔吐及び39.4°Cの発熱が認められた。体調を崩す数日前、女性は道路でネズミ(ラット)と考えられるものを発見し拾い上げ、移動させた。そのネズミは女性を少し噛んだが、皮膚はほとんど傷つかなかった。女性のコクサッキーウイルスに対する検査は陽性、鼠咬症菌に対する検査でも陽性を示した。女性はペニシリン静脈内投与による治療が施され、2018年の秋に治療を終了した。